

今日のトピック

中国、追加金融緩和を決定

ポイント1 預金準備率を0.5%引き下げ 昨年11月に次ぐ金融緩和

- 中国人民銀行(中央銀行、以下、人民銀)は4日、2年9カ月ぶりに預金準備率を引き下げました。大手行向けを0.5%引き下げ19.5%としました。預金準備率は、銀行が中央銀行に預ける資金の比率で、その引き下げは銀行が貸し出しに回せる資金に余裕が出る効果があります。
- 中銀は声明で、「穏健な金融政策を継続」し、「融資の規模を適度に増やし、経済の健全で安定した運営を促す」と、今後の追加金融緩和に含みを持たせました。

(%) 中国の政策金利と預金準備率(大手行の場合) (%)



(注)データは2008年1月1日～2015年2月5日。
(出所)Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 企業の資金繰りに配慮 景気のコト入れ狙う

- 今回の措置は、昨年11月の預金と貸出の基準金利の引き下げに続く金融緩和です。2月18日からの旧正月(春節)の大型連休を控えて資金需要が高まることから、金融緩和により、企業などの資金繰りに配慮したと見られます。
- 1日に公表された1月の企業景況感指数(製造業PMI)は、3年2カ月ぶりに好不況の境目となる50を下回り、景気のコト入れが強まりました。追加の金融緩和で景気のコト入れも狙ったものと見られます。

(ポイント) 中国の主要な株価指数の推移 (ポイント)



(注)データは2014年1月1日～2015年2月5日(最終日は前場の始値)。
(出所)Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 3月の全人代をにらみ、追加の景気刺激策への期待が高まる

- 中国の株価指数(上海総合指数)は、2月4日時点で昨年11月21日の金融緩和以降約3割弱上昇し、株式市場は金融緩和を好感しています。上昇ペースが速まっていたことから、株式の信用取引を規制するなど、政策当局は市場の過熱に留意していたと見られます。景気のコト入れを示す統計が出たことなどから、このタイミングで追加金融緩和に動いたと見られます。
- 3月に日本の国会にあたる全国人民代表大会(全人代)が予定され、2015年の経済目標が決められます。昨年12月の経済工作会議では、経済の構造改革と安定成長の両立した「新常态」を目指す方針が示されました。追加金融緩和と財政支出による追加刺激策が、新方針の正式な決定のタイミングに合わせて公表される期待が高まっています。

ここも
チェック! 2015年01月22日 最近の指標から見る中国経済(2015年1月)
2014年11月25日 中国の金融政策(2014年11月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。